

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

日本語教師【中堅】に対する研修報告

実施機関名	公益社団法人 日本語教育学会
事業名	日本語教育学会の人材, 知財, ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム(略称: JCN研修)
研修実施地域	全ブロック(オンライン)
事業実施期間	令和4年5月~令和5年2月
研修受講者数	52名

研修報告の構成

1. 研修実施機関概要
2. 事業概要
 - 2.1. 目的
 - 2.2. 実施体制
3. 研修の概要
 - 3.1. 中堅研修プログラム
 - 3.1.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.1.2. 研修概要
 - 3.1.3. 研修実施体制
 - 3.1.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.1.5. 研修の様子
 - 3.1.6. 評価
 - 3.2. 講師育成プログラム
 - 3.2.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.2.2. 研修概要
 - 3.2.3. 研修実施体制
 - 3.2.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.2.5. 研修の様子
 - 3.2.6. 評価
 - 3.3. 研修前後のフォローアップ体制
4. 事業評価概要
5. 成果と課題
 - 5.1. 成果
 - 5.2. 課題

1. 研修実施機関概要

研修実施機関名：公益社団法人日本語教育学会

昭和52（1977）年創立



【理念】

・公益社団法人日本語教育学会は、「日本語教育の実践と学術研究の振興を図り、もって教育・学術の交流及び発展に寄与し、世界の人びとの相互理解を促進する」ことを目的とし、国内外での日本語の多様な学びを応援しています。

【主な事業】

大会事業、支部活動事業、チャレンジ支援事業、学会誌事業、調査研究事業、表彰事業、社会啓発事業、連携協力事業、国際連携事業、広報事業、受託事業

【組織】

- ・ 代議員総会 法人法の社員総会に相当し、役員を選任、定款の変更、各年度事業報告の承認等について決議します。
- ・ 理事会 学会の主な事項を決め、執行します。
- ・ 各事業委員会 学会の諸活動を分掌しています。
- ・ 任意の諮問機関 会長あるいは理事会から諮問された事項について検討します。
- ・ 事務局 学会の事務を処理しています。

・ URL : <https://www.nkg.or.jp/>

2. 事業概要（目的・実施体制）

2.1. 目的

本事業（「日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」）は，本学会が2018-2020年度（開発事業），2021年度（普及事業）に受託した同プログラムの成果を踏まえ，次の3つを目的として実施した。

目的1：【中堅研修プログラム】においては，日本語教師がこれまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り，俯瞰し，それらを理論的・メタ的に位置づける。この活動を通じて，これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し，日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】（以下「中堅日本語教師」）を育成する。

目的2：【講師育成プログラム】においては，【中堅研修プログラム】にメンターとして参加し，伴走することを通じて，「中堅日本語教師」を育成する研修を企画・運営したり，講師を務めたりすることができる人材（「中堅日本語教師」研修講師）を育成する。

目的3：両プログラムにおいて，研修修了後も「中堅日本語教師」，また「中堅日本語教師」を対象とする研修の講師として，自律的，持続的に活動を続けていけるためのネットワークを構築する。

2. 事業概要（目的・実施体制）

2.2. 実施体制

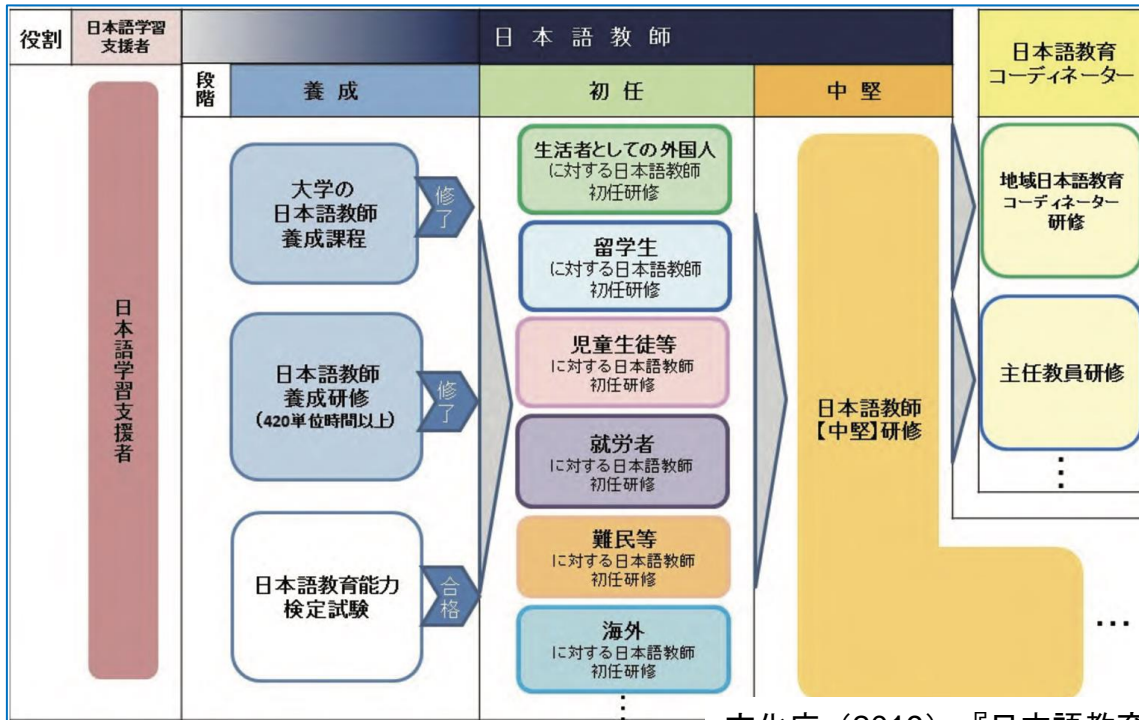
2.1. の目的を達成するために、日本語教師の養成や研修の経験をもつ本学会会員による4つの委員会（運営委員会、中堅研修委員会、講師育成委員会、教材作成委員会）を組織し、【中堅研修プログラム】と【講師育成プログラム】を企画、運営した。また、外部有識者を含む事業評価委員会を組織し、事業の内容、方法について評価を受けた。

事業全体の事務は、本学会事務局に事業実施統括員を置き、統括を行った。事業実施統括員は文化庁、及び関連諸機関との渉外業務を行うとともに、各委員会の開催・運営、および、2つの研修プログラムの事業経費管理等を行った。また事業実施統括員の下で、各委員会との調整業務を行う事業補佐員を配置した。

3. 研修の概要

本事業では、中堅日本語教師を対象と【中堅研修プログラム】および中堅日本語教師のための研修を担当できる講師を対象とする【講師育成プログラム】の2つの研修を実施した。

【中堅研修プログラム】の対象となる中堅日本語教師は、文化庁（2019）において「日本語教師として初級から上級までの技能別指導を含む十分な経験（2,400単位時間以上の指導経験）」を有する者。※当該活動分野において3～5年程度の日本語教育歴にある者」とされている。ここでいう「活動分野」とは、下図の初任の項にある「生活者としての外国人」「留学生」「児童生徒等」…といったカテゴリーのことである。中堅日本語教師には、それまで経験してきた活動分野を問わず、いかなる学習者群、学習環境にも対応できることが求められている。



3. 研修の概要

【講師育成プログラム】の対象者は前ページの図には明示されていない。そこで、「地域日本語教育コーディネーター」「主任教員」に関する記述を参考にしつつ、「中堅日本語教師のための研修を担当できる講師」とゆるやかな合意のもとで研修をデザインした。

このあと【中堅研修プログラム】および【講師育成プログラム】のそれぞれについて、次の項目ごとに順に報告する。

1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）
3. 研修実施体制
4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
5. 研修の様子
6. 評価

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

本研修は次の特徴を持つ（以下「募集要項」より抜粋）」

（1）研修テーマ

文化庁報告書（2019）の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」（p.31），および，「日本語教師【中堅】研修における教育内容」（p.56）を踏まえ，本研修では「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし，研修生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理，検討します。

- (1) 日本の在留外国人施策・制度
- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験
- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トレランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラム及び教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権
- (13) マネージメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力
- (17) その他

（2）チームで研修活動を行う

他者とのつながりと協働を重視するために，研修生は応募時に提出した 自らの課題を一人で考えるとともに，課題に基づいていくつかのチームに分かれ，チームとしても研修活動を行います。一人で考え，解決するのではなく，組織や専門分野を超えた様々なリソースを活用し，つながることの重要性とダイナミズムを経験します。

（3）各自の課題を自ら設定し，自ら解決する

各自の課題や解決方法を誰かに教えてもらうのではなく，自ら課題を設定し，チームで解決にあたります。そのために，現場を分析して理解を深め，他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組めます。その過程を通じて，日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指します。

3. 研修の目的・ねらい・特徴

(4) 日本語教育学会のリソースを活用する
研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有します。

(5) 6期に分けて実施
2022年8月から2023年1月までの約6ヶ月の研修期間を、6期に区分します。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれにZoomによるスクーリング（同期型研修）が行われます。さらに、研修全体を通してSlackを利用した課題の遂行と意見交換が並行して行われます。その他、1月に修了レポートの提出が求められます。

(6) Slackを利用した非同期型研修
全研修期間を通じ、Slackを利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行います（非同期型研修）。チームにはそれぞれ研修担当の講師とメンターが付き添い、伴走します。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行います。研修担当者もリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。Slackを利用した非同期型研修では、具体的には、講義と演習の合間に次のことを行います。

1. 各種課題の提出
2. チームによる進捗状況報告
3. 課題解決方法の検討と決定
4. 改善案の検討
5. 成果発表会に関する協力・連絡
6. その他、個別のネットワーキング

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

各期は原則として講義と演習の組み合わせで構成します。

講義（4単位）：講義動画の視聴（1単位）＋課題の遂行（1単位）＋スクーリング（2単位）

講義の非同期型研修では、動画教材による講義を各自で視聴します。

講義視聴後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。

課題提出後、Zoomによるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行います。

演習（4単位）：課題の遂行（1単位）＋スクーリング（2単位）＋課題の遂行（1単位）

スクーリングの前に担当講師が指定する事前課題を遂行します。

Zoomによるスクーリングで、複数のチーム間（班）で共有や議論などを行
い自身の研
修課題の解決を図ります。

＜中堅研修コースのスケジュール（めやす）＞
（40単位：講義20単位+演習20単位、1単位=45分）

期	1期 (4単位)	2期 (8単位)	3期 (8単位)	4期 (8単位)	5期 (8単位)	6期 (4単位)
時期	8月前半	8月後半	9月	10月	11月	12～1月
内容	講義1	講義2 演習1	講義3 演習2	講義4 演習3	講義5 演習4	成果発表会 (演習5)
提出物	1)振り返りシート 2)自己評価票	1)講義・演習の課題 2)振り返りシート	1)講義・演習の課題 2)振り返りシート	1)講義・演習の課題 2)振り返りシート 3)自己評価票	1)講義・演習の課題 2)振り返りシート	1)研修成果のまとめ 2)修了レポート 3)自己評価票

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

講義動画の内容および担当講師

	科目	内容	担当講師	動画本数
事前	研修について(1)～(2)	① コースガイダンス	義永美央子	1
		② 研究倫理と著作権	小林ミナ	1
講義 1	日本語教育人材の育成／日本語教育における中堅 (1) ～ (3)	①日本語教育人材について	西原鈴子	1
		②日本語教育人材の育成	西原鈴子	1
		③日本語教育における「中堅」	西原鈴子	1
講義 2	日本語教師と「熟達」 (1) ～ (3)	日本語教師と「熟達」	横溝紳一郎	3
講義 3	「実践を記述する」ということ (1) ～ (3)	①「実践」を観察する	石黒広昭	1
		②「実践」を記述する	石黒広昭	1
		③「実践」を評価する	石黒広昭	1
講義 4	課題解決のアプローチ (1) ～ (3)	課題を解決する	石黒広昭	3
講義 5	実践を振り返る/異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	横溝紳一郎	3

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

同期型研修の担当講師

回数	開講日時	時間	科目名	講師	講師補助者
1	8月6日（土） 13：15～15：45	2	スクーリング1	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子
2	8月27日（土） 13：00～16：30	4	スクーリング2	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子
3	9月24日（土） 13：00～16：30	4	スクーリング3	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子
4	10月15日（土） 13：00～16：30	4	スクーリング4	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子
5	11月19日（土） 13：00～16：30	4	スクーリング5	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子
6	12月25日（土） 13：00～16：30	4	成果発表会	1班：中島祥子 2班：義永美央子 3班：金子史朗	1班：小河原義朗・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：黒崎誠・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：久保田美子・柳田直美・北出慶子・平山允子

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.3. 研修実施体制

JCN研修

部会長： 小林 ミナ

教材作成委： 田中 祐輔, 建石 始, 澤邊 裕子

日本語教育学会事務局
事業実施統括員
事務補佐員

研修担当：

班長
副班長

中島 祥子
小河原 義朗

A 吉川 達
B 嶋 ちはる
C 安原 凜
D 永田 良太

1班

義永 美央子
黒崎 誠

E 星 摩美
F 嶋津 百代
G 御館 久里恵

2班

金子 史朗
久保田 美子

H 柳田 直美
I 北出 慶子
J 平山 允子

3班

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

募集 2022年5月20日～5月31日（火）23：59（JST）
日本語教育学会HPの他，日本語教育関係の学会，研究会MLなどで周知

選考 応募資格，および，提出された事前課題によって選考
応募資格
中堅日本語教師として十分な経験を有する者（目安として3年以上の日本語教育歴がある者）。

事前課題

この研修で取り組みたい，ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について，以下の質問に答える形でPDFファイルを作成し，上記のURLからアップロードしてください（申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります）。ファイル名は「JCN中堅事前課題_（お名前）」としてください（例：「JCN中堅事前課題_学会太郎」）。

研修参加が認められた場合，ここに書かれた課題に基づいてチーム編成を行います。また，ここに書かれた課題の検討・解決に取り組むことが求められます。

1) 取り組みたい課題は，あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400字程度で説明してください。

2) その課題を解決するために，これまでどのようなことに取り組みましたか。200字程度で説明してください。

3) その課題を解決するために，何が必要だと考えますか。200字程度で説明してください。

4) その課題を解決するために，この研修に期待することは何ですか。200字程度で説明してください。

応募者44名，受講者42名（うち海外を拠点とする者8名），修了者41名

修了 80%以上の出席率，80%以上の課題達成率の両方を満たした者

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.5. 研修の様子

中堅研修コースの趣旨・目的

文化庁（2019）の日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」に関連した内容を提供します。

その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

Padlet

藤永美央子 + 3 - 16 時間

JCN研修2班_220806

チームE

18 時間

サンプル

ここに書き込んでください。画面上の+ボタンを押すと、新しい書き込みが始まります。

コメントを追加

匿名 1分未満

自分で受け持ったコースをプランニングし、シラバス作成から試験作成まで一連の流れができる人

匿名 1分未満

見直す気持ちを持っている人

コメントを追加

チームF

匿名 1分未満

中堅について

- ～ができる (技能)
- ・プログラム全体、周辺のことも見ることができる。
- ・長期的視点でプログラムを見ることができる。
- ・初任の教員に対して、一通りのことができる。
- ・諸問題や諸課題を「言語化」して周りに伝えることができる。そこから何かを見つけることができる。
- ・課題を共有するための環境を作ることができる。

～をもっている (知識)

- ・全体的な知識がある。
- ・オリジナルな展開ができる。

チームG

1分未満

日本語教育における「中堅」とはどんな人だと思えますか。

①知識②技能③態度と分かれているが、この境界線はあいまいだと感じた。

コメントを追加

匿名 1分未満

カリキュラムをプログラムを作成できる人

コメントを追加

匿名 1分未満

プログラムの作成、実行、指導できる人

コメントを追加

JCN2022 ▾

プランをアップグレード

- スレッド
- メンション & リアクション
- 下書き & 送信済み
- Slack コネクト
- その他

チャンネル

- # 0_zoomリンク一覧
- # 0_講義動画リンク一覧
- # 0_全体連絡
- # 1_演習1の課題_0820
- # 1_演習2の課題_0917
- # 1_演習3の課題_1008
- # 1_演習4の課題_1112
- # 1_演習5の課題_チームのキ...
- # 1_講義2の課題_0820

中堅研修コース2班 ▾

プランをアップグレード

- スレッド
- ダイレクトメッセージ
- メンション & リアクション
- 下書き & 送信済み
- ブックマーク
- Slack コネクト
- その他

チャンネル

- # 0_全体連絡
- # 1_事前課題
- # 1_自己紹介
- # 2_質問箱_slackの使い方等
- # e_チームe

日本語教育学会の
人材、知財、ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム
(略称：JCN 研修)
【中堅研修コース】

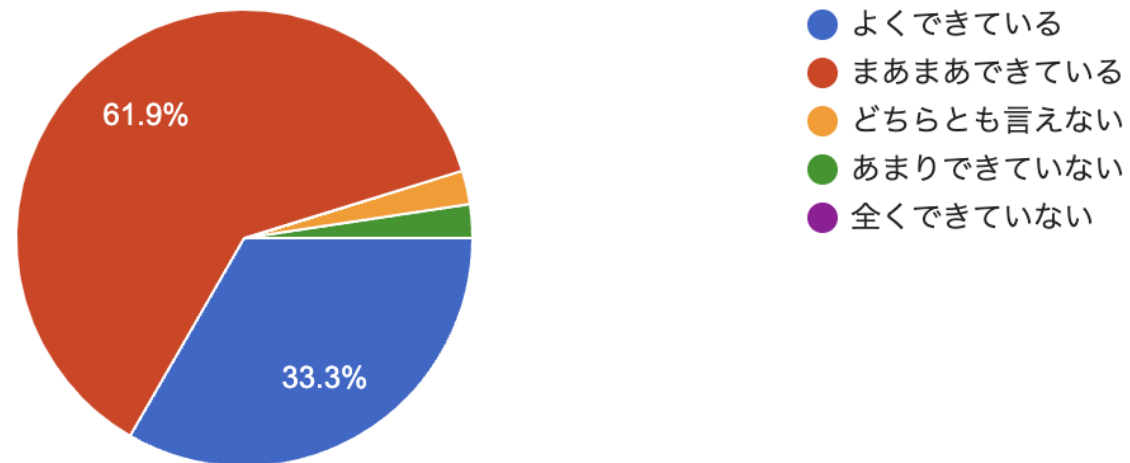
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.6. 評価

2-1. これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰することができる

42件の回答



・自分の目指していた、心の中にあることを語れるようになるための日本語教育というもののあり方について、既存の概念を用いて的確に説明できるようになってきたと思う。

・メタ的に俯瞰するには、自分の現状を伝えるための表現を知っていなければならない。この研修を通して、その辺の用語を与えていただいて、自分の状況がよりよく説明でき、問題点もより適切に、汎用的な用語で説明できるようになったと感じる。

・演習、修了レポート、講義課題、Slackなどで、さまざまな形で、自らの実践について説明してみることができました。

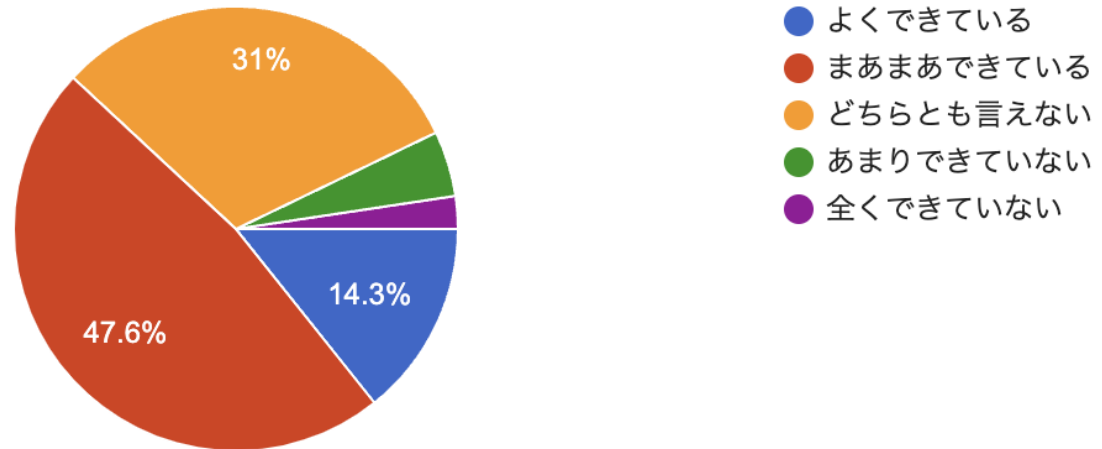
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.6. 評価

2-2. これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を理論的・メタ的に位置づけることができる

42 件の回答



・ チームメンバーの様々な状況や実践を聞くと同時に、自分はどうか？と考え、以前と比べ、自分の実践についての見方が変化したように思う。

・ 本研修で、自らの教育実践を理論的・メタ的に位置づける事はまだまだできるとは言えないと思います。実践の中の問題点を俯瞰的に見て、見つけることは多少できるようになってきたと思いますが、その解決策を見いだすまではできていません。これからも学んでいきたいと思っています。

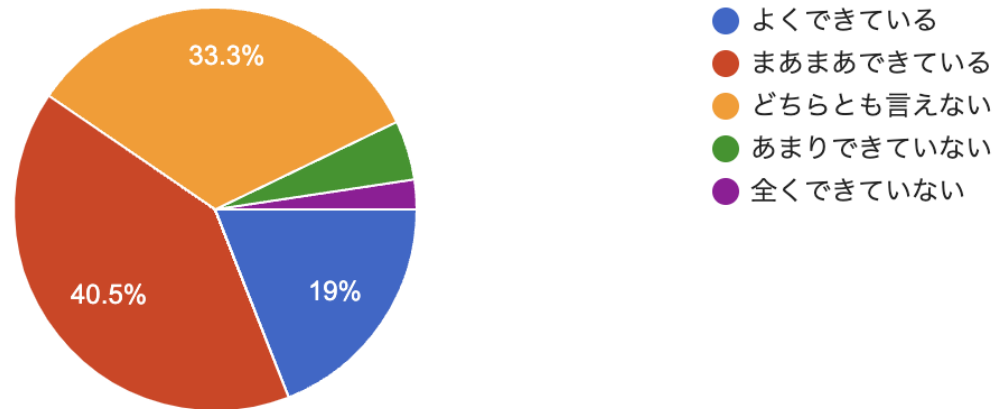
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.1. 中堅研修プログラム

3.1.6. 評価

2-3. これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる

42 件の回答



・多様化がどこまで進むかは未知数で、その全てに対応可能かどうかはわからない。しかし、どうすれば学習環境を整えることができるかについては知識をある程度は持っていると思う。

・非常に意識して取り組んでいることです。しかし、その場や状況、目の前の方々などに応じた取り組みを続けることは、どこかで満足することではないと思うので、「よくできている」という回答には今後ならないと思います。

・できているとは言えないかもしれないが、していきたいという気持ちを持っている。それはこの研修で自分とは違う現場の日本語教育について間接的に知ることができ、やってみたいという気持ちが高まった。

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

本研修は次の特徴を持つ（以下「募集要項」より抜粋）」

受講者は、講義動画の視聴を通して必要な知識を得ることに加え、「中堅研修コース」（「中堅研修コース」募集要項を必ず参照のこと）にメンターとして主体的に参加することで（謝金対象）、実地でのスキル習得を目指します。研修を通して、日本語教師【中堅】の資質能力とは何であり、どう高めることができるのかを考えます。これらを踏まえ最終課題として、日本語教師【中堅】に対する研修企画案を作成、自身の講師育成の資質能力を高めます。

(1) 講義動画の視聴

講義動画を視聴することで、文化庁（2019）の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」, 「日本語教師【中堅】研修における教育内容」の具体について理解を深めます。

3. 研修の目的・ねらい・特徴

(2)同期型研修／非同期型研修

「中堅研修コース」にメンターとして参加し、同コース受講者をサポートすることで、研修プログラムのデザインや進め方等を実践的に学びます。「同期型研修」（スクーリング）までに受講生が提出する課題へのフィードバックや「非同期型研修」（LMSを利用した受講者間での情報共有やディスカッション）へのメンターとしての参加から、現職教師に対するフィードバックの方法や、対話による省察の促し方を学びます。また、「中堅研修コース」における講義と演習の往還に接することにより、理論と実践のインターフェイスについて学びます。

(3)メンターセッション（MS）

研修期間中に計9回のメンターセッション（以下、MS）を行います。自身の研修企画案の検討、担当する「中堅研修コース」受講者のグループ（以下、チーム）の状況と課題をメンター間で共有し、担当講師のアドバイスを受けます。セッションは、いくつかのチームをまとめた班ごとにZoomまたはSlackを用いて行います。MSでは次のことを検討します。

- 1.中堅研修の企画および実施・運営案
- 2.スクーリングのファシリテーション
- 3.「中堅研修コース」受講者の課題とフィードバック
- 4.「中堅研修コース」のメンターとしての振り返り

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

各期は原則として講義と演習の組み合わせで構成します。

(1) 講義（5単位）

オンデマンド学習として、「中堅研修コース」と同じ動画教材による講義（視聴）を行います。

(2) 演習【オリエンテーション・事前/振り返り/メンターセッション・研修企画案発表会】（計26単位）
演習として、以下のセッションを行います。

【講師育成コース】オリエンテーション/研修企画案発表会（4単位）

研修開始時に受講者全体でオンライン同時双方向のオリエンテーション（2単位）、終了時に研修企画案発表会（2単位）を実施します。

【中堅研修コース】に係る事前セッション/振り返りセッション（4単位）

「中堅研修コース」開始前にメンターとしてのコースへの関わり方等を確認する事前セッション（2単位）、コース終了後には振り返りセッション（2単位）を実施します。

メンターセッション（MS）（18単位）

「中堅研修コース」スクーリングの前後、メンターとしてチームの課題を担当講師と共有するとともに、研修生として自身の立案した研修企画・運営案に関する演習を行います。

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

<講師育成コースのスケジュール（めやす）>

時期	7月	8月前半	8月後半	9月	10月	11月	12月	1月
内容	オリエンテーション, 事前セッション, MS①②	講義演習1 MS③	講義演習2 MS④	講義演習3 MS⑤	講義演習4 MS⑥	講義演習5 MS⑦	成果発表会参加	振り返りセッション, 研修企画案発表会, MS⑧⑨
提出物	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート		振り返りシート 自己評価票 修了レポート

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.1.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

講義動画の内容および担当講師

	科目	内容	担当講師	動画本数
事前	研修について(1)～(2)	① コースガイダンス	黒崎誠	1
		② 研究倫理と著作権	小林ミナ	1
講義 1	日本語教育人材の育成／日本語教育における中堅(1)～(3)	①日本語教育人材について	西原鈴子	1
		②日本語教育人材の育成	西原鈴子	1
		③日本語教育における「中堅」	西原鈴子	1
講義 2	日本語教師と「熟達」(1)～(3)	日本語教師と「熟達」	横溝紳一郎	3
講義 3	「実践を記述する」ということ(1)～(3)	①「実践」を観察する	石黒広昭	1
		②「実践」を記述する	石黒広昭	1
		③「実践」を評価する	石黒広昭	1
講義 4	課題解決のアプローチ(1)～(3)	課題を解決する	石黒広昭	3
講義 5	実践を振り返る/異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	横溝紳一郎	3

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

同期型研修の担当講師

回数	開講日時	時間	科目名	講師	講師補助者
1	7月2日（土） 13：00～16：00	3	オリエンテーション メンターセッション①	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
2	7月30日（土） 13：00～16：00	3	中堅研修コースに関わる事前セッション メンターセッション②	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
3	8月6日（土） 16：00～17：30	1.5	メンターセッション③	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
4	8月27日（土） 16：45～18：15	1.5	メンターセッション④	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
5	9月24日（土） 16：45～18：15	1.5	メンターセッション⑤	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
6	10月15日（土） 16：45～18：15	1.5	メンターセッション⑥	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
7	11月19日（土） 16：45～18：15	1.5	メンターセッション⑦	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
8	1月7日（土） 13：00～16：00	3	中堅研修コース振り返りセッション メンターセッション⑧	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子
9	1月21日（日） 13：00～16：00	3	研修企画案発表会 メンターセッション⑨	1班：小河原義朗 2班：黒崎誠 3班：久保田美子	1班：中島祥子・吉川達・嶋ちはる・安原凜・永田良太 2班：義永美央子・星摩美・嶋津百代・御館久里恵 3班：金子史朗・柳田直美・北出慶子・平山允子

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.3. 研修実施体制

JCN研修

部会長： 小林 ミナ

教材作成委： 田中 祐輔, 建石 始, 澤邊 裕子

研修担当：

班長
副班長

中島 祥子
小河原 義朗

A 吉川 達
B 嶋 ちはる
C 安原 凜
D 永田 良太

1班

義永 美央子
黒崎 誠

E 星 摩美
F 嶋津 百代
G 御館 久里恵

2班

金子 史朗
久保田 美子

H 柳田 直美
I 北出 慶子
J 平山 允子

3班

日本語教育学会事務局
事業実施統括員
事務補佐員

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

募集 2022年5月20日～6月31日（火）23：59（JST）
日本語教育学会HPの他，日本語教育関係の学会，研究会MLなどで周知

選考 応募資格，および，提出された事前課題によって選考
応募資格

- ・文化庁(2019)『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（改定版）』， p.31
「表8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての専門性と経験を有する者。
- ・現在，または将来的に中堅日本語教師研修の講師等を務める可能性があり，日本語教育に貢献する意欲がある者。
- ・過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。

事前課題

本研修は，中堅日本語教師の研修を企画し，講師として研修を運営・実施できる人材の育成を目的としています。そして，並行して行われる【中堅研修コース】にメンターとして主体的に参加することにより，研修の企画・運営に求められる知識とスキルを実地で身につけます。

本研修参加にあたっての事前課題として，以下の4点について，現在のご自身の考えを記してください。

- ・日本語教師【中堅】に対して，どのような研修を企画したいと考えていますか。
- ・①の企画を考えるに至ったご自身の経験および日本語教育の現状について説明してください。
- ・①の企画を実際に運営・実施するにあたって，今のご自身には何が足りないと考えていますか。
- ・ご自身がメンターとして【中堅研修コース】に具体的にどのように関わろうと考えていますか，それによって上記の③はどのように学べると考えていますか。

上記4点についての現在のご自身の考えを記してください。合わせて1,200字程度（A4判1枚）でまとめてください。

応募者12名，受講者10名（うち海外を拠点とする者2名，中堅修了者4名），修了者9名

修了 80%以上の出席率，80%以上の課題達成率の両方を満たした者

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.5. 研修の様子



2022_JCN研修【講師育成コース】・自己評価票③

このアンケートは、本研修事業の検証を目的とし、研修生の皆様に研修の成果とデザインのデザインについてのお考えをお伺いするものです。回答いただきたい内容は、文化庁

:Padlet

2時間

JCN研修 講師育成 全体振り返りセッション 2

ルーム1

3時間

成果発表会に参加した振り返り

ルーム2

匿名 3時間

成果発表会に参加しての振り返り

ルーム3

3時間

1) 成果発表会に参加しての振り返り

講師育成コ...

[プランをアップグレード](#)

Slack コネクト

その他

▼ チャンネル

- # 0_全体連絡
- # 1_事前課題
- # 1_自己紹介
- # 1_自己評価票1_0710
- # 1_自己評価票2_1023
- # 1_自己評価票3_0210
- # 1_振り返りシート1_...
- # 1_振り返りシート2_...
- # 1_振り返りシート3_...
- # 1_振り返りシート4_...
- # 1_振り返りシート5_...
- # 1_振り返りシート6_...
- # 1_振り返りシート7_...
- # 1_振り返りシート8_...

0_全体連絡

講師育成コース共通スライド全... 1月7日(土) ↓

PDF

日本語教育学会の
人材、知財、ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム
(略称：JCN 研修)
【講師育成コース】

2023年1月7日(土)
全体振り返りセッション
MS®

👤 1 🗨️

それから、このスライドの6枚目にある研修企画案テンプレートを以下
PowerPoint プレゼンテーション

講師育成コース_研修企画案_テンプレート.pptx
PowerPoint プレゼンテーション

🔗 「タイトル：名前」

研修企画案

例
趣旨・目的、期間、方法（地域、媒体、形態、スケジュールなど）
内容 担当者 募集対象 参加条件 受講料 修了要件 応募方法・選考

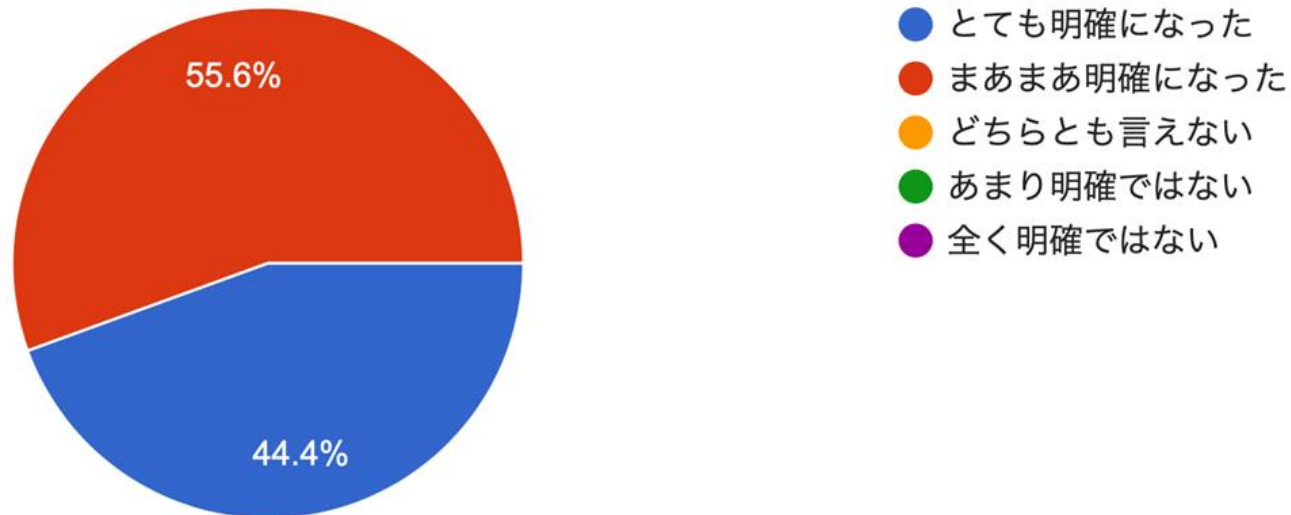
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.6. 評価

2-1 中堅教師に必要な資質能力とは何か

9件の回答



- ・講師育成コースを受ける前よりは非常に知識が深まったと思うが、「とても」という自信はない。まだまだ勉強する必要を感じている。
- ・自分の中で重視する部分が固まった、というイメージです。
- ・研修企画案にも記載したが、自身の考えが明確になった。

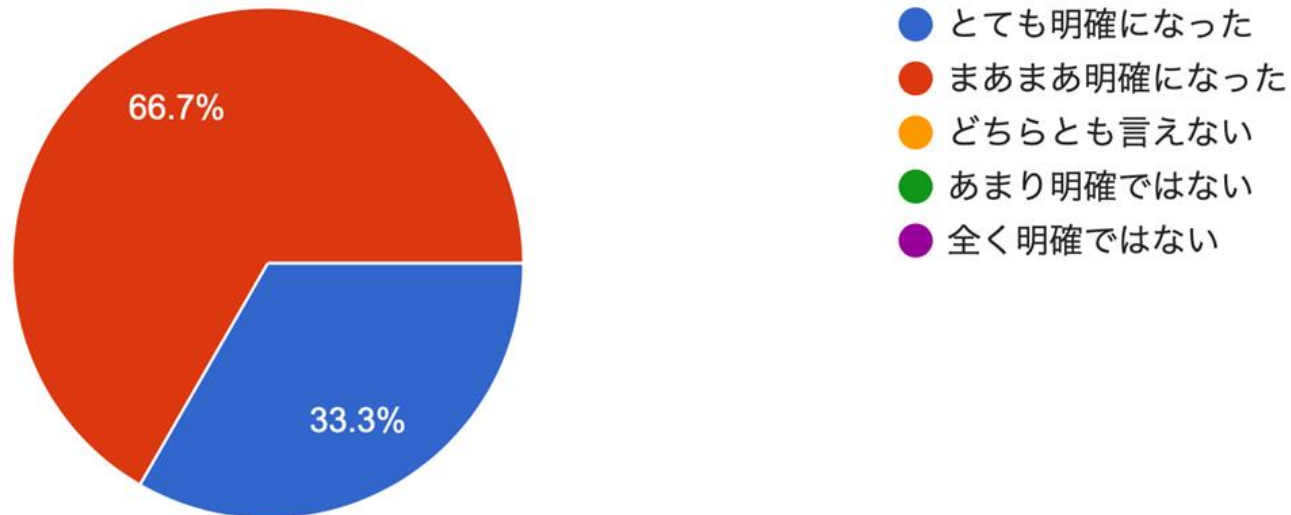
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.6. 評価

2-2 中堅教師に必要な資質能力を獲得するためには何が必要か

9件の回答



- ・ 2-1に同じ。
- ・ 研修企画案に記載したが、明確になった。

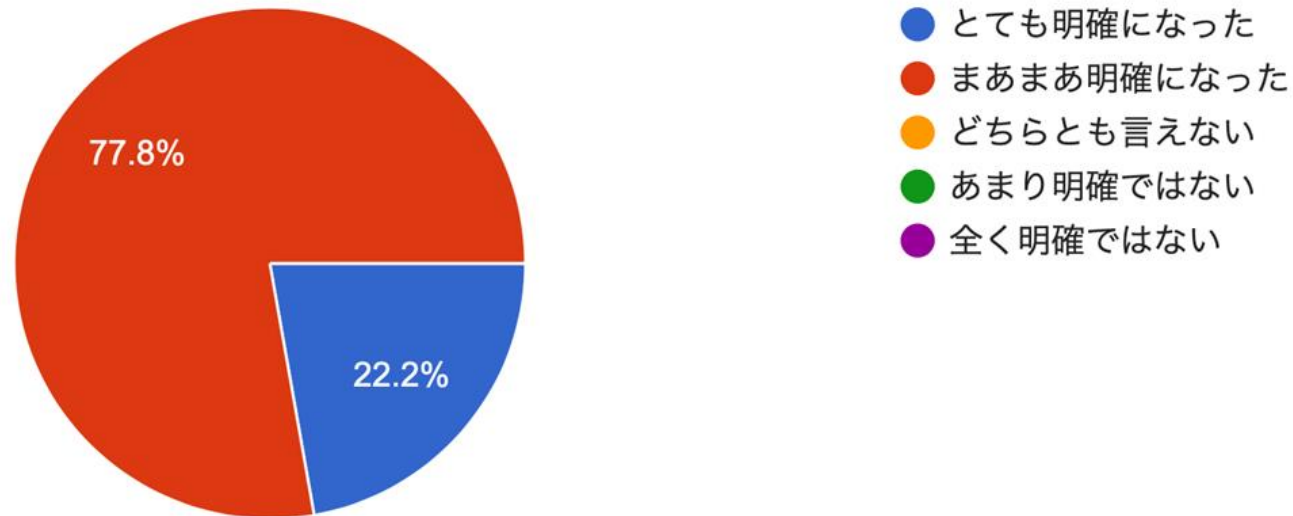
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.6. 評価

2-3 中堅教師に必要な資質能力をどのようにすれば獲得できるか

9件の回答



- ・ 2-1に同じ。
- ・ 自身の企画案にその答えを記載できるほど学びが多かった。

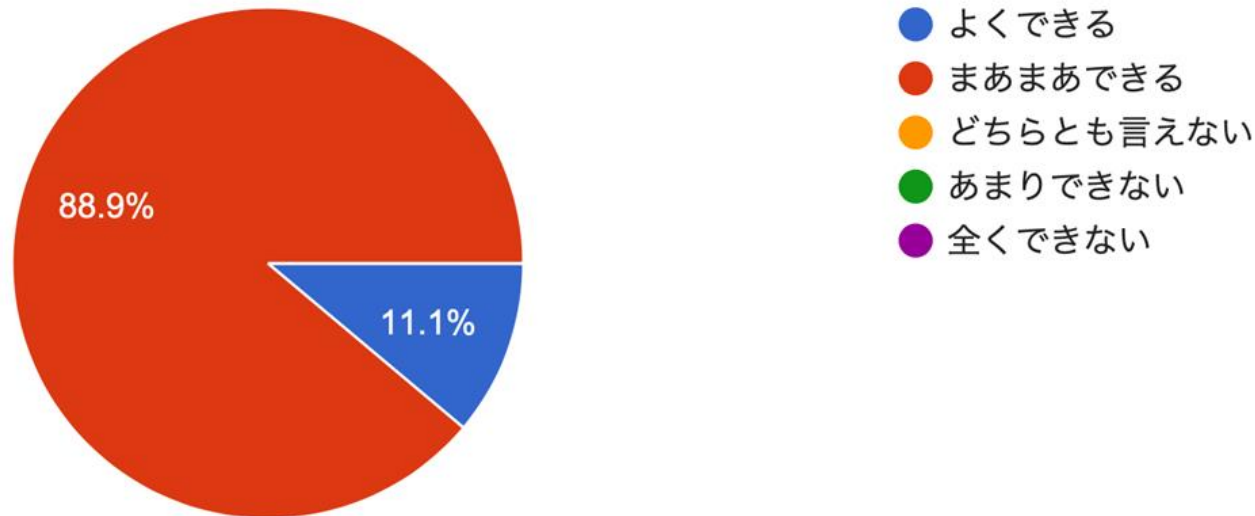
3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.2. 講師育成プログラム

3.2.6. 評価

2-4 中堅教師の研修を企画することができる

9件の回答



・中堅教師の定義が明確ではないのと、どのフィールドの中堅教師の研修かによっても研修内容は異なるので「よくできる」とは言えないが、自分が知っている、または、経験のある分野の研修はできると思う。

・まだ実行はしていないので。

・ただし、研修の企画といったものは、今回のように個人で立案するのではなく、複数名で行うことが必須であると考えます。

・研修企画案を作成して、最後の最後にイメージができた。

3. 研修の目的・ねらい・特徴

3.3. 研修前後のフォローアップ体制

研修中：

1. 非同期型研修でLMSとして用いているSlackにおいて、中堅研修プログラム受講生には講師育成プログラム受講生が、講師育成プログラム受講生には担当講師が伴走し、日常的に学びを深めるサポートを行うデザインとなっている。

2. Slackに「日本語教育に関する情報共有」というチャンネルを設定し、本研修に限らず日本語教育に関する情報を誰でも投稿でき、共有できるデザインとなっている。

研修後：

1. 開発事業（2018-2020）を含めた過去の研修関係者がネットワークを構築しており、研修終了時には参加（任意）を呼びかけている。

JCN2022 ▾



- # 1_講義4の課題_1008
- # 1_講義5の課題_1112
- # 1_自己評価票1_0814
- # 1_自己評価票2_1023
- # 1_自己評価票3_0114
- # 1_振り返りシート1_0814
- # 1_振り返りシート2_0904
- # 1_振り返りシート3_1002
- # 1_振り返りシート4_1023
- # 1_振り返りシート5_1127
- # 2_研修成果まとめ_0107
- # 2_個人修了レポート_0114
- # 2_発表会資料_1218
- # 3_slackの使い方
- # 4_調査協力依頼
- # 4_日本語教育に関する情報...
- + チャンネルを追加する
- ▼ ダイレクトメッセージ

4. 事業評価概要

- 4.1. 事業評価委員会
2022年8月12日 第1回事業評価委員会開催
2023年2月19日 第2回事業評価委員会開催
- 4.2 中堅研修プログラム
自己評価票を3回（8月，10月，1月）提出
- 4.3 講師育成プログラム
自己評価票を3回（7月，10月，2月）提出

4. 事業評価概要

4.1. 事業評価委員会

委員長 小林ミナ
副委員長 小河原義朗

委員（外部有識者，五十音順）

石黒 広昭（立教大学，教育学）
栗田 佳代子（東京大学，高等教育）
森田 裕介（早稲田大学，教育学）
戸田 佐和（公益社団法人国際日本語普及協会，日本語教育）
野田 尚史（日本大学，日本語教育）

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

外部有識者より（第2回事業評価委員会）

委員 A_研修生が自身の実践を理論的に振り返るという点で、専門用語を使うことは、抽象度の高い言葉を使うことで実践を違う形で見ることができるメリットがある反面、実践と理論の結び付けが難しくなる面もある。専門用語によって振り返った後に、具体的な実践とどのように結びつけるか、というのが大事。

委員 B_実践と理論の結び付けについて、テーマとして授業に関することを扱う場合、研修の間に実践を挟むという研修デザインもある。理論で学んだことを実践で試すことで結び付けるという設計である。

委員 C_受講生は、他者との関わりの中から自身への振り返り（学ぶべきことや今後の方向性等）を得られているだろう。運営において研修委員の負担を感じるので、負担の軽減が図れるといいのではないかと感じた。また、受講生への課題も少し多いのではないかと感じた。中堅教師は、それぞれの現場において学生への対応、組織内でのマネジメント、外部との渉外などの役割を担っている。この研修に参加することで、それぞれの役割について外からどのような評価を獲得したかを聞きたい。講義動画に対しての質問については、各自が質問を書いて共有するという方法もある。Slackでのやりとりは、自分の考えを文字化するという意味で大事なこと。班・チームを超えたディスカッションは、もっとやってほしいと思う。

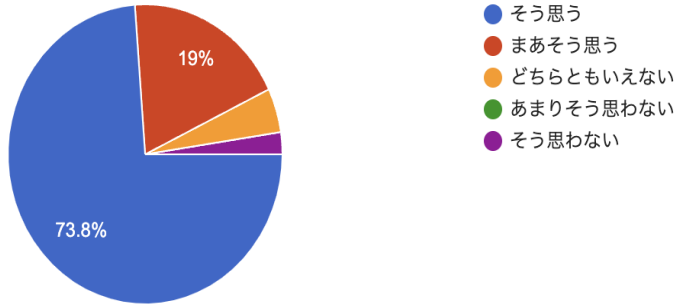
委員 D_文化庁の研修普及事業は基本的に養成を中心に作られていて、中堅に関しては詳細には記述されていない感がある。実際に研修を行うには具体化しなければならないのだが、本研修はそこを上手に形にしてくれたものと思っている。活動分野横断型という点も様々な所属の研修生の課題解決を見ることがクリアしている。

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.2. 中堅研修プログラム（第3回自己評価票より）

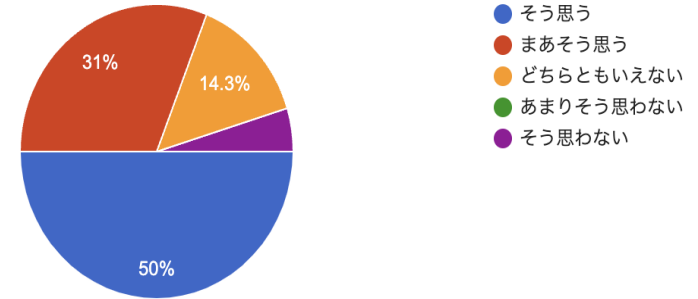
3-1 全体として、この研修に参加してよかったと思いますか。

42件の回答



3-7 もし同じ研修の機会があったら、他の中堅教師に勧めたいですか。

42件の回答



・日本語教育に携わる方々と長期間、学びを共にすることで、いろいろな気づきや学びがありました。勤務校での業務を続けながらも、ここで誰かとつながっているという感覚が常にあり、それがとてもあたたかく、心強く感じました。メンバーや講師・メンターの先生方のおかげだと思います。

・チームメンバーとの出会い、様々な課題を知ること、自分に向き合って、教師としての自分を知る時間など、研修に参加しなければ得られなかった、大きな収穫があった。

今までもやもやと考えていた課題を具体的に言語化し、話し合いや課題の調査などを通じて言語化することができて、もやもや感が少し減ったと思うから。

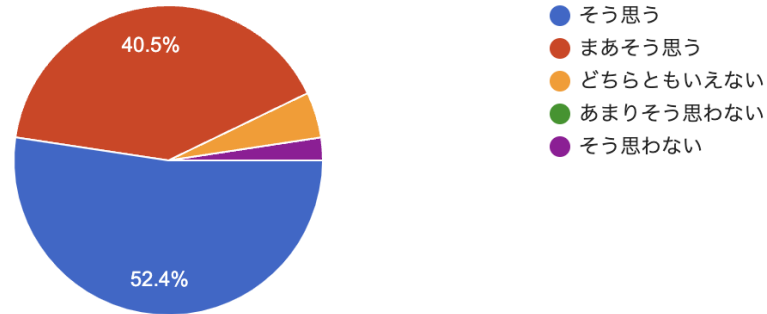
・同僚や知人にもぜひ勧めたいです。でも、時間がかかりとられるので、業務と両立できるかというところ、かなり厳しい面はあるかとは思いますが、ご本人のやる気次第だとは思っています。とはいえ、このボリュームで、受講料はびっくりするくらい安い、しかも、交通費がかからない、となると、参加するデメリットはほとんどないと思います。

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.2. 中堅研修プログラム（第3回自己評価票より）

3-5 この研修は、いわゆる「座学」ではなく、研修参加者が自分の課題を持ち寄って解決していく形で行われます。この形態は「中堅」としての資質・能力の開発において効果的だと思いますか。

42件の回答



- ・中堅日本語教師には、問題解決や協働ができることが求められていると思います。自分の課題を持ち寄り、他の教員と話し合いお互いに解決していく事は現場のシュミレーションでもあり、実際に研修の中で実務をこなしていることにもなるので、中堅としての資質・能力の開発に繋がっていると思います。
- ・受動的に知識を蓄積するだけでは実践力が伴わない。与えられた課題でなく、状況を改善すべく課題を見つけ出し、解決に向けた実践に取り組むという中堅教師の務めを実践を通して学ぶことができたと思う。
- ・一人一人がいる実践の現場が違いうし、それに共感して、自分ごととして考えていくことで、教師としての柔軟な思考や発想が育つと思うから。人の話を聞くというのは教師に一番かけがえがあるが、一番大事なスキルだと考える。

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.2. 中堅研修プログラム（第3回自己評価票より）

（自由記述欄回答）

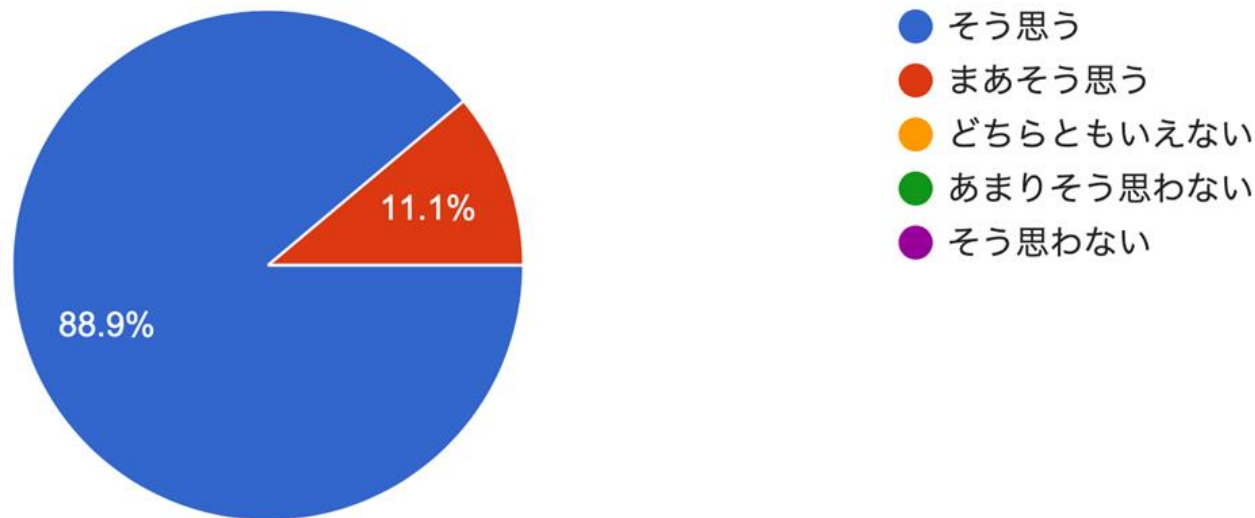
- ・研修への参加前後で、**教師としての内面的な変化が感じられました**。学んだことを実践につなげて、目の前の課題に取り組み続けていきます。どうもありがとうございました。
- ・**5か月間大変お世話になりました。参加する前に考えていたよりも、何倍も難しかったです但其の分成果も大きかった**と感じます。そして苦しいだけではなく、学ぶことが楽しい、対話することで磨かれると実感することができました。
- ・研修を運営してくださった先生方、スタッフの皆様、ありがとうございました！大変有意義な研修期間を過ごさせていただきました。さまざまなツールを使ったりと新しい試みもあり、**日本語教師として、だけではなく、オンライン環境を使った研修・授業の構築を学ぶこともできました**。ありがとうございました。
- ・**錚々たる先生方がいらっしゃるのに、その先生方の研究内容などについて直接お伺いするチャンスがなかったのは残念でした**。研究者ではないので、論文などへのアプローチは難しいのですが、**一度くらい先生方の研究テーマについてお話を伺う機会があればあればさらに充実した経験になっただろうな**と思います。
- ・研修で、向上心がある多くの先生方と交流ができると楽しみにしていたが、実際には自分のチームでの交流がほとんどで、**多くの方々と知り合う機会がなかった**。これだけ長期間でやる研修はあまりないので、**研修期間中に、他にもさまざまな現場で働く先生方とお話がしてみたかった**。また、**発表会で特に感じたが、全体的に質問が出ないことが気になった**。私がいる海外では、質問が出ないということはあまりなく、どんなことでも気軽に聞いて、そこから議論が発展するという状況がある。今回も、日本人が集まる場ではいつもそうなりがちだが、なかなか質問が出ず、疑問に感じた。この辺について何か、場づくりのプロから全体に向けて発言を促すような仕組みや、コツを学習する機会があると良かったと思った。（私はどちらかというと言言をする方なので、なぜ質問が出ず、シーンとする場ができるのかぜひ知りたい。）

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.3. 講師育成プログラム（第3回自己評価票より）

3-1 全体として、この研修に参加してよかったですか。

9件の回答



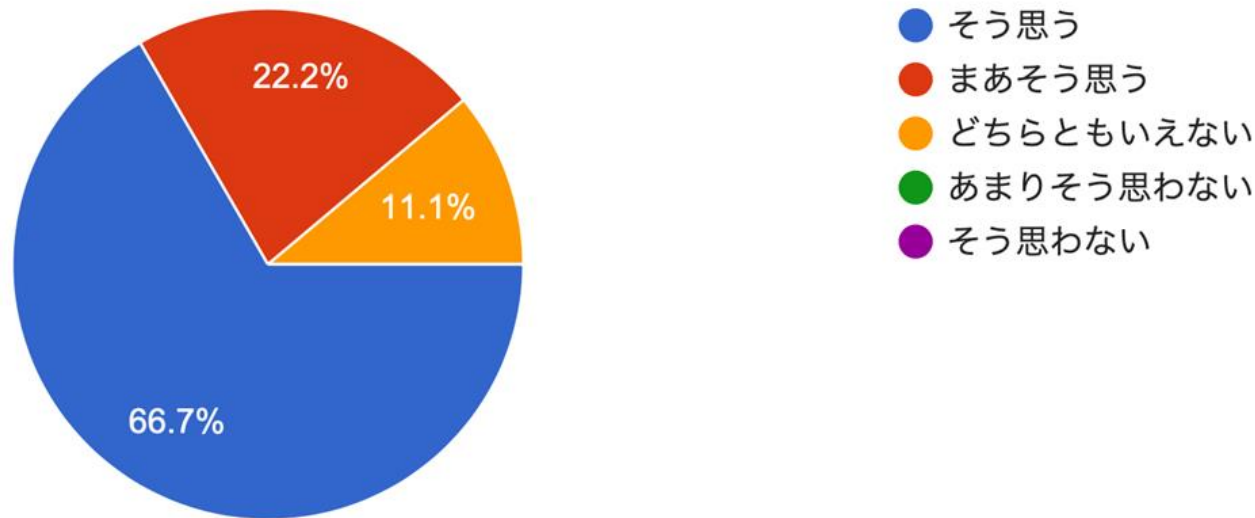
- ・ 期間も長く、本業との両立はかなりハードだったが、自分の職場の同僚や先輩とはここまでしっかり日本語教育の将来について語ることがなかったので、視野が広がり、有意義な時間だった。
- ・ 今まで経験した研修とは異なり、自分自身を見つめ自己変容を迫られた研修だった
- ・ 人材育成や研修の手法について、理解が深まったを感じる
- ・ 研修企画案を考えることができ、多くの方とのかかわりがもてて、自身の成長につながったため。

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.3. 講師育成プログラム（第3回自己評価票より）

3-5 この研修は、いわゆる「座学」ではなく、...資質・能力の開発において効果的だと思いますか。

9件の回答



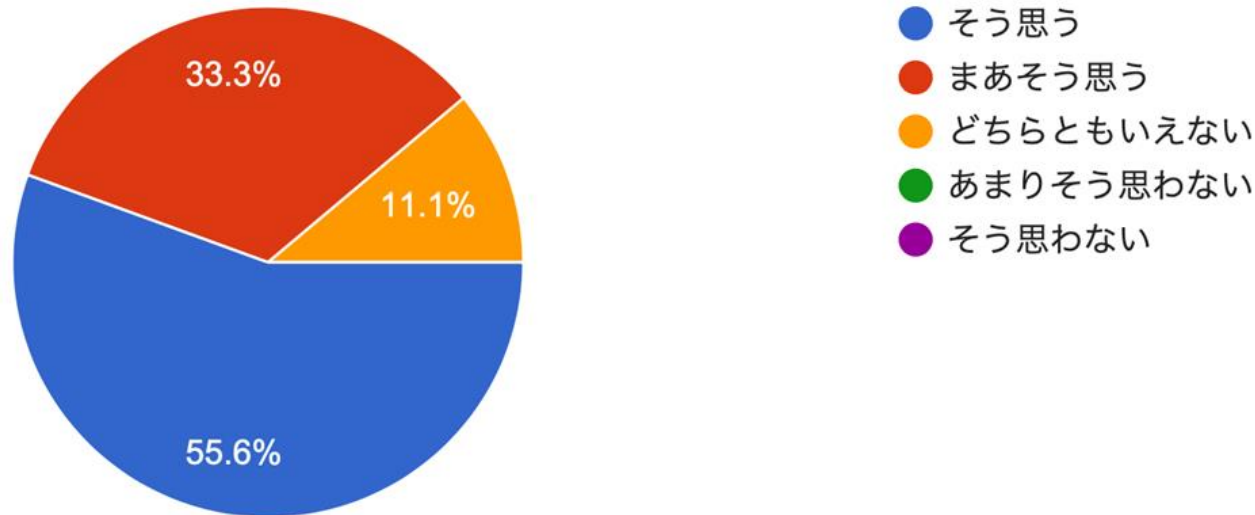
- ・中堅コースと講師育成コースの両方を経験したが、講師育成コースのほうはメンターとしての動画学習もなく、中堅コースの後のスクーリングで少し話し合うだけだったので、自分の判断が正しいのかわからなかった。経験から学ぶことも大切だが、「メンター（指導者、助言者）」として求められているものが何か、最後までわからず、不安な気持ちがずっと続いていた。班を越えて、メンター同士で話し合う場が研修の最初から定期的にあるとよかった。班によっては、メンターだけでZoomで集まって意見交換をしていた班もあるようだが、例えば、3人中1人が「忙しいから無理」となると、もう一人とだけ話し合いの場を持つのは難しかった。その場合、メンター10人が気軽に交流できていたら、その中の3, 4人でも都合のいい時間に集まることができれば、もっと情報交換ができたと思う。
- ・形態自体は十分効果的だったと思います。ただ、メンター同士や講師とのセッションはもっと密にすべきだったと反省しています。
- ・実践の中から感じることや考えることが多くあった。

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.3. 講師育成プログラム（第3回自己評価票より）

3-8 もし同じ研修の機会があったら、他の教師に勧めたいですか。

9件の回答



- ・すでに同僚に勧めている。
- ・内容はとてもいいのだが、業務との同時進行にはかなりのハードルを感じたため。
- ・スケジュール的な面ではハードだが、参加後に自分の変化が感じられる

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

4.3. 講師育成プログラム（第3回自己評価票より）

（自由記述欄回答）

- ・ありがとうございました！
- ・中堅コースでの経験がとても楽しかったので、講師育成コースにも参加したいと思って受講しましたが、自分自身の性格を見直したり、日本語教育の多様性について学んだり、有意義な時間を過ごすことができ、感謝しております。また、前回とは違った新たな出会いもあり、職場だけでは会えなかったフィールドの先生方とお会いし、講義を聞いたり、一緒に意見交換ができてよかったです。ただ、「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」という名称なのに、「ネットワーク」の面では班を越えたネットワーク作りが十分にできたとは言えないので、今後、講師やメンターが呼びかけてくださったJCN研修修了生のグループを通して、日本語教師ネットワークを大切にしていきたいと思います。長い間、お世話になり、どうもありがとうございました。
- ・長い間お世話になりました。久しぶりに触れたアカデミックな雰囲気刺激を感じました。学会に縁のない私を受け入れてくださってありがとうございました。
- ・全て書き切ることができましたと思います。
- ・特にありません。8か月、ありがとうございました！

5. 成果と課題

5.1. 成果

- ・ 受講生が、機関を越えて繋がれる場を創出できたこと。
- ・ 受講生が、日本語教育の現状、将来に関する理解を深められたこと。
- ・ 受講生が、特定の機関、現場を越えた俯瞰的な視野を獲得できたこと。
- ・ 知識伝達を主軸としない、「自らの現場の課題を持ち寄る」という課題解決型の研修プログラムをデザインし、実施できたこと。

5.2. 課題

- ・ 文化庁外部有識者視察において、「文化庁（2019）にある「技能」「態度」は十分に扱われているが、相対的に「知識」が少ない」旨の指摘を受けたこと。→「知識」の扱い方を再考する。
- ・ 第1回事業評価委員会において、「講師育成プログラム」のための独自の講義が必要であると指摘を受けたこと。→「講師育成プログラム」のための独自の講義を導入する。
- ・ 修了生のネットワーク形成が任意の組織に留まっていること。→第三者からもアクセス可能なプラットフォームの構築を目指す。